

電子書籍の出現による読書の変容 - 電子版と紙版との比較を通じて -

岩崎 さくら

2010 年以降、電子書籍市場は拡大しつつある。iPad で読む電子書籍には、紙の書籍の単なる電子化にとどまらない「新しい電子書籍」がある。新しい電子書籍は、紙の書籍ではできなかった読書を実現し、読書の変容をさせる可能性を持つメディアである。電子書籍での読書に関する研究は行われているが、新しい電子書籍に着目したものは少ない。そこで、本研究は、新しい電子書籍が作品の理解にどのような影響を与えるのか、現段階でどのように認識しているのかということをはっきりとすることを目的とした。そのため、日本語版の新しい電子書籍である『あんじゅう』、『歌うクジラ』を用いた読書実験、及びアンケート調査、インタビュー調査を実施した。

被験者は本学類の学生 40 名とした。まず、『あんじゅう』を読むグループと『歌うクジラ』を読むグループに分けた（各 20 名）。さらにグループ内で、紙版から読む班、電子版から読む班に分けた（各 10 名）。調査では、被験者はまず抜粋箇所 A の読書実験を実施、読書後、A に関する理解度テスト、アンケート調査に回答してもらった。抜粋箇所 B についても同様に実施し、すべての工程の最後にインタビュー調査を実施した。

理解度テストの結果、電子書籍と紙の書籍の違いによる作品の理解への影響はみられなかった。電子書籍ならではの要素は、作品の理解を促進することも阻害することもなかった。

アンケート調査、インタビュー調査から、現段階での電子書籍での読書に対する認識、求められている電子書籍ならではの要素について考察した。「紙の書籍と電子書籍のどちらで読みたいか」という質問に対しては、紙の書籍という回答が圧倒的に多い結果となった。ただし、紙の書籍と回答した全員が電子書籍を受け入れないとは言い切れない。彼らの中には、紙の書籍での読書が当たり前だったため電子書籍を選ばなかった人、つまり電子書籍での読書に移行する可能性をもつ人がいた。一方、電子書籍を支持する人は電子書籍ならではの要素や便利さを理由としており、電子書籍での読書が続けると思われる。電子書籍を支持する人と移行する可能性がある人を合計して被験者の半数程度になることから、電子書籍での読書は拡大すると予想できる。電子書籍ならではの要素としては、巻物形式は比較的高い評価、イラスト、BGM は低い評価を受ける傾向にあった。だが一部のイラストや BGM は好意的に評価された。電子書籍は、紙の書籍と同一であることではなく、読みやすさ、集中しやすさを求められる。このことは従来の読書と異なる読書でも受け入れられる兆しと読み取れる。

電子書籍での読書は、読書の楽しみを感じられないもの、使いにくいものと否定的にイメージされがちであった。しかし、今後の電子書籍の普及と発展によって、電子書籍での読書が受け入れられていく可能性は充分にある。そして、電子書籍での読書が広まることによって、新しい読書がつくられていくと考えられる。

（指導教員 松林麻実子）